

世界の農業機械・資材トレンド

ヨーロッパの農機実用テストの権威、ドイツ「profi」誌に掲載された世界の農機の最新情報

Roll-bar spat stirs ATV suppliers オーストラリア

ロールバー論争に混乱するATVサプライヤ



オーストラリアで賛否が分かれているATV（全地形対応車。バギー）のロールバーをめぐる論争は、衝突保護装置の必要性に反対するメーカーが参加し、クイーンズランド州で開催されている大規模な農業機械ショーであるCRTファームフェストのフィールド・デーに波及した。

ロールバーの問題は、クイーンズランドにある企業が参入したことで、比較的安価な同社の「クワッドバー」（4輪バギー・製品名）が販売されると、今年になってATVに関連する死亡例が相次いだ影響から依然として話題になっている。

つい最近、オーストラリア労働組合のビクトリア州支部が組合員に対して、衝突保護装置がない4輪バギーの運転を禁止したことにより、同国のATVメーカーを代表する自動車産業連邦会議所が強く反発。会場でのATVサプライヤは大型の掲示板まで設置してディラー向けの記事を掲載し、すべてのディラーに対していかなる衝突保護装置も設置しないよう要請した。従って、ロールバーをATVに設置する必要があるかどうかに関してATVオーナーが混乱しているのも驚くことではない。ホンダのATV地域マネージャーであるロッド・デイ氏は、どのようなロールバーであれ設置する必要は全くないと強く主張する。

「世界のメーカーはこれまで、背の高いバーやROPS（横転保護構造）装置を据え付けることにより負傷・死亡するリスクが高まることを証明してきた。潜在的に運転者は車に巻き込まれる可能性があり、加えて低い木の周囲を走っている時に運転者は身をかかめることができるがロールバーはそうはいかない」

代わりに、デイ氏はPPEと彼が呼ぶヘルメットやグローブなどの個人防護具の重要性を強調する。同時に、運転者に対しての認定トレーニングコースも実施済と加えて説明した。



クイーンズランドの会社はATVにロールバーを設置することの利点を宣伝している。

Tillage tool cuts through tough residue 米国

強靱な作物残さを刈る耕うん機



ルイビル・ショーの出展者で、イリノイに所在するアースマスター社が初めての垂直方向耕運機となる「バーチゴ」（Verti-Go・製品名）を発売した。

バーチゴはトレッドマークであるソイルレーザースクを切断刃の外径に組み込み、使用される期間中も鋭さが持続するように設計されている。波形の外周に25個の刃を備えたディスクは均一に摩耗して、この機械の製品寿命全体を通じて強力な切断能力を維持する。

通常、この耕うん機は秋に使用され強靱な茎、刈株やワラを刈り取り、土壌を攪拌するが土壌流出を最小限にするために攪拌しすぎないようにする。

「7・5インチの狭いディスクスペースにオフセット型ディスクセッティングを備え、作物残さが素早く分解するように細かく切断する一方で、ブレードの切断刃が作物残さを保持して残余養分が再び土壌に還元されやすくなる」とアースマスター社のプロダクト・マーケティング・マネージャーのランディ・ウエブ氏はコメントした。

春には、この機械は越冬した作物残さを裁断するとともに踏圧された土壌を破碎する役割に変わり、水分、養分や空気が播種床に入るようにする。

後部を上げることに、バーチゴは同時に直径425mmの回転バレル型整地ツールを据え付けることができ、薬剤散布や春まきの前に滑らかでしっかりとした表土を作ることができ



アースマスター社のVerti-Goは、作物残さを刈り取り、土壌水分を保持して均一に植え付けるための整地用に設計された垂直方向耕うん機である。



Four jobs in the one pass

オランダ

1回の操作で4つの作業



オランダ製のEvers社 Grass-Profi機は牧草の生育を向上させる単一動作での草地再生機として販売されている。この製品の後ろにはSchuitemaker社の最新型Rapide (製品名) 両用トレーラーワゴンが用意されている。



整地、除草、播種および踏圧の作業すべてを一つの動作で行なう、というのはエバース (Evers) 社の新型グラスプロフィ (Grass-Profi、製品名) のキャッチフレースであり、この機械はオランダのパートナー企業であるスキトメーカー (Schuitemaker) 社のコントラクター・デーにおいて、6・2mの牽引式タイプが発表された。

同時にエバース社は3・0mの連結式グラスプロフィも同じく草地メンテナンスおよび草地再生機として販売しており、後者の作業は種の発芽に十分な水分が土壌中にあると仮定すると7月中旬から8月中旬に行なうのが最もよいと推奨されている。

同時に、コントラクター・デーではスキトメーカー社の最新型ラピード (Rapide、製品名) 両用サイレージワゴンも発表された。新型の仕様では、より強力な作物吸入能力および幅広い刃を搭載し、同社のサイレージトレーラーの外観と同じ仕様に仕上げられている。

Rip the compaction out of cane ground

南アフリカ

サトウキビ畑から硬盤を叩き出す



アフリカのサトウキビ畑での収穫作業による硬盤は収穫量に悪影響を及ぼしている。これに対処するために、特に灌漑作物に対して心土破碎が改めて導入されている。

ケンゲム (Kengem) 社製の浮体式パラベーン型破碎機が最近、クワズール・ナタール州エンパンゲ二でのグズール農場で開催されたフィールド・デーにおいて実演された。この農業機械は今シーズン中に使用され、同農場のマネージャーはこの技術が導入された圃場では、落ち込みが続いている年間収量が好転していることに満足していた。圃場の一つでは、破碎したことの反応が良好であり、その場所では移植が予定されていたにもかかわらず、次のシーズンに向けて刈株から新芽を出すことが可能となった。サトウキビは、やはり基本的に植え替えまでの約10年間は、毎年の収穫後に再び芽を出す作物のようである。

破碎機に関してケンゲム社の製品は、破碎刃の後ろで牽引されるパラベーンプレートと呼ばれる板で構成されている。このパラベーンプレートは地中350mmで可動し、土壌を地表まで戻さずにかき上げて耕し、パラベーンは植え付けられている畝の間を走行すれば根張りに悪影響を及ぼさないとされている。

現在、サトウキビの植え替え替わりに肥料用ホッパーおよび畝立て機能を搭載した試作品が新しく開発されている。ケンゲム社によると、一度に土壌調整と植え付けを行なえる大きな利点は、土壌水分の損失が少なくて済むことにある。



肥料用ホッパーおよび畝立て機能を追加したことにより、この試作機では1回で土壌調整とサトウキビの植え替えを行なうことが可能になった。